

5 P-4

書誌データベースの  
CD-ROM検索に関する教育

金沢みどり

東洋英和女学院大学人間科学部

1. はじめに

現在、オンライン・データベース、CD-ROMデータベース、インターネット等の電子情報源が、社会に広く浸透しつつある。これらの電子情報源のうち、近年CD-ROMデータベースの普及がめざましい。CD-ROMデータベースの分野として広く提供されているのは、現在のところ「図書・刊行物情報」などの書誌データベースである。

一般に、CD-ROMデータベースは、初心者でも検索しやすいと言われているが、利用者は必ずしも質の高い検索を実施しているとは言えない。

そこで、本研究では、図書を対象とした書誌データベースのCD-ROM検索に関して、必要な教育内容とは何かについて考察した。更には、情報検索の初心者である大学生を対象とした調査結果から、図書情報のCD-ROM検索に関する教育を実施する上での留意点を示し、CAIコースウェアの開発を行なった。

2. 図書情報のCD-ROM検索に関する教育内容

具体的に、図書情報のCD-ROM検索に関して、以下のような教育内容が考えられる。

- (1) 情報検索におけるデータベースの利用
- (2) CD-ROM検索の特徴
- (3) 図書情報のデータベースのデータ項目
  - ① 図書の書誌事項に関する項目
  - ② 図書の主題に関する項目

(4) 検索式における論理演算子の活用

- ① 検索式と論理演算子
- ② 論理演算子の機能

(5) 件名検索

- ① 件名検索の手順
- ② 件名の選び方

以上の教育内容について、大学生は実際にどの程度理解しているのか、基礎的知識を問う簡単なテストを実施した。尚、図書館情報学に関連した学科の学生については、体系的かつ専門的にCD-ROM検索を含む情報検索教育を受けていると考えられるので、対象外とした。そこで、それ以外の学生で、大学において約1年間程度コンピュータに関する科目を履修した大学1年生122名を対象とした。

表1は、そのテストの結果について、各項目ごとに正解者数と正解率をまとめたものである。

表1 図書情報のCD-ROM検索に関するテストの結果  
(122名対象)

番号	内容	正解者数(%)
(1)	情報検索におけるデータベースの利用	88 (72.1)
(2)	CD-ROM検索の特徴	22 (18.0)
(3)	図書情報のデータベースのデータ項目	0 (0.0)
	①書誌事項に関する項目	0 (0.0)
	②主題に関する項目	3 (2.5)
	③データ項目の意味	1 (0.8)
(4)	検索式における論理演算子の活用	76 (62.3)
	①論理和による検索式	94 (77.0)
	②論理積による検索式	89 (73.0)
(5)	件名検索	2 (1.6)
	①件名検索の手順	34 (27.9)
	②件名の選び方	9 (7.4)

Education on CD-ROM Retrieval of Bibliographic Database

Midori Kanazawa

Toyo Eiwa Women's University

32 Miho-cho, Midori-ku, Yokohama-shi 226

これらの項目のうち、「図書情報のデータベースのデータ項目」に関する正解率が最も低く、次いで、「件名検索」、「CD-ROM検索の特徴」の順である。そこで、特にこれらの三つの項目について、学習者が正しい理解を得られるようなCAIコースウェアを開発する必要がある。

### 3. 図書情報のCD-ROM検索に関するCAIコースウェア

図書情報のCD-ROM検索に関するチュートリアル型CAIコースウェアの開発を、FCAIシステム(Frame Type CAI System)で行なった。

#### (1) コースウェアの構成

開発したコースウェアは、図1に示すように5種類のコースから構成されている。

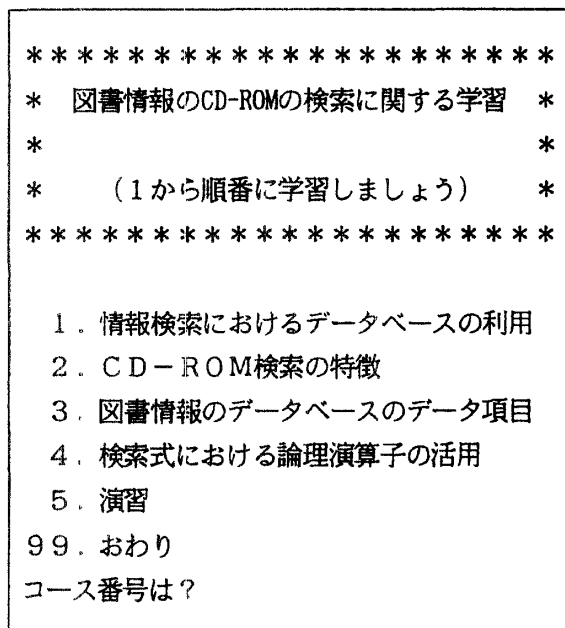


図1 図書情報のCD-ROM検索に関する学習のコース選択メニュー

学習者は、1から5までを順番に学習することが望ましい。これらの各コースは、前述の教育内容に対応している。尚、件名については、3の「図書情報のデータベースのデータ項目」の中で、図書の主題に関する項目のひとつとして取り上げている。

更に5の「演習」の中で、具体的な件名による検索事例に基づきながら、件名検索の手順や件名の選び方について詳しく学習する。

#### (2) コースウェアの特徴

##### ①各コースとも質問を設定した。

各コースとも、学習者が自らの理解度を確認しながら学習をすすめることができるように、説明のあとに多肢選択形式の質問をいくつか設定した。質問に対する学習者の回答が間違っているならば、正解に導くヒントを示した後、もう一度同じ質問に答えるチャンスを与えた。

##### ②図書の主題に関する項目からの検索に、主眼を置いた。

学習者が図書の書誌事項に関する項目からだけでなく、図書の主題に関する項目からも検索できるように、件名や日本十進分類法(NDC)などの分類記号について詳しく学習できるようにした。

##### ③学習者の知識の整理のために、図書の探し方について代表的なパターンを示した。

演習にはいる前に、4番目のコースの「検索式における論理演算子の活用」の最後のところで、図書の探し方についていくつかのパターンに分け、例を示した。これにより、学習者は知識の整理をしてから、演習にのぞむことができる。

##### ④演習により、学習者の応用力を育成することを目指した。

5番目のコースでは、具体的な図書情報のCD-ROMの検索事例に基づきながら、演習を行なうことができる。検索事例としては、書名と出版年による検索、書名とNDCによる検索、著者名と出版者による検索、件名による検索など、多種多様なものが示されている。更には、学習者のための演習問題が用意されている。いろいろな検索事例に触れ、複数の演習問題を解くことにより、学習者は応用力を養うことができる。